

2010年 APEC電気通信・情報産業担当大臣会合

沖縄開催に向けて

2009年6月10日



沖縄県

目 次

1. Welcome to OKINAWA	1
2. APEC参加国との関係	2
3. 会場候補	3
4. 主要宿泊施設	4
5. アクセス	5
6. 開催支援	6
7. 視察プログラム案	8

1. Welcome to OKINAWA

APEC電気通信・情報産業担当大臣会合の沖縄開催

①日本とアジアを結ぶ国際情報通信ハブの形成を目指しています

- ・沖縄県はアジアに近接する地理的優位性を活かし沖縄を通して情報と人が流通する国際情報通信ハブを目指しています
- ・情報産業ハイウェイやグローバルインターネットエクスチェンジ(GIX)を整備し日本とアジア・世界を結びます

②情報通信産業創出拠点の形成及びIT人材の育成を図っています

- ・情報通信産業における次世代技術やビジネスモデルの開発と実験の場の創出により情報産業の活性化を図ります。
- ・日本とアジアに必要な高度IT人材の創出と集積を図ります。

③会議場や宿泊施設等のインフラが整備された観光リゾートです

- ・沖縄コンベンションセンターは4千名を収容出来る県内最大の複合施設であり万国津梁館はロケーションが魅力の国内でも有数の国際会議場です
- ・沖縄県内には大型リゾートホテルやシティホテルなどが揃っており、外国からの参加者へも十分な対応が可能です

④G8サミット、米州開発銀行総裁会議など開催実績が豊富です

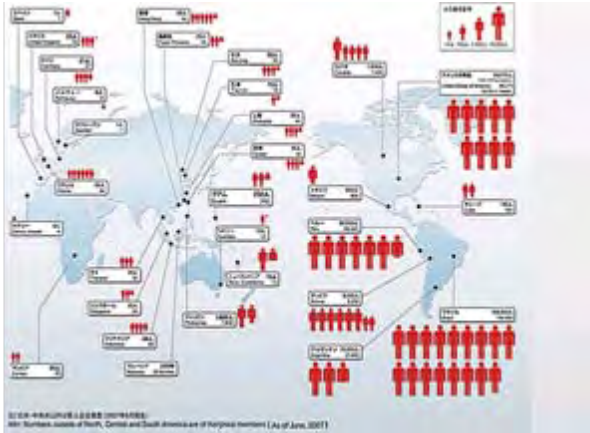
- ・2000年：G8サミット首脳会合
(全体7000名、内海外2000名)
- ・2005年：米州開発銀行総裁会議
(全体6800名、内海外1300名)
- ・2008年：G8科学技術大臣会合
(全体100名、内海外60名)

沖縄開催

沖縄県の基本姿勢：アジア・太平洋地域の発展に寄与する地域の形成

2. APEC参加国との関係

世界中の沖縄県系人は約36万人に上り、APEC参加国21カ国地域のうち13カ国地域には沖縄県人会があり活発な活動を行っています



世界のウチナンチュ・ネットワーク



5千名(海外4千名)が参加した世界のウチナンチュ大会(2006)

- APEC参加国における
沖縄県人会
- インドネシア(25名)
 - シンガポール(25名)
 - タイ(30名)
 - フィリピン(1,500名)
 - マレーシア
 - 台湾(35名)
 - 香港(55名)
 - 中国(80名)
 - オーストラリア(12名)
 - ペルー(1,379名)
 - メキシコ(160名)
 - アメリカ(15,821名)
 - カナダ(483名)

沖縄県で開催されたAPEC参加国が関係する国際会議

第4回
太平洋・島サミット
2006年

参加国(APEC関連国):
オーストラリア、ニュージーランド
日本



空港での歓迎セレモニー

第12回
島嶼観光政策フォーラム
2008年

参加国(APEC関連国・地域):
韓国、中国、インドネシア、アメリカ、タイ、
日本(沖縄)



持続可能な観光施策について参加国・地域代表が講演した島嶼観光政策フォーラム=5日午前、名護市の万国津梁館

3. 会場候補

沖縄コンベンションセンター
(宜野湾市)



万国津梁館
(名護市)



4. 主要宿泊施設



ザ・ブセナテラス(総客室数/410室)
空港:車 70分
コンベンションセンター:車 50分
万国津梁館:徒歩 7分



万国津梁館
空港:車 70分



スパリゾートエゲセス(総客室数/90室)
空港:車 70分
コンベンションセンター:車 50分
万国津梁館:車 5分



ラグナガーデンホテル(総客室数/303室)
空港:車 30分
コンベンションセンター:徒歩 8分
万国津梁館:車 50分



沖縄コンベンションセンター
空港:車 30分



沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ
(総客室数/352室)
空港:車10分
コンベンションセンター:車 30分
万国津梁館:車 70分

那覇空港→



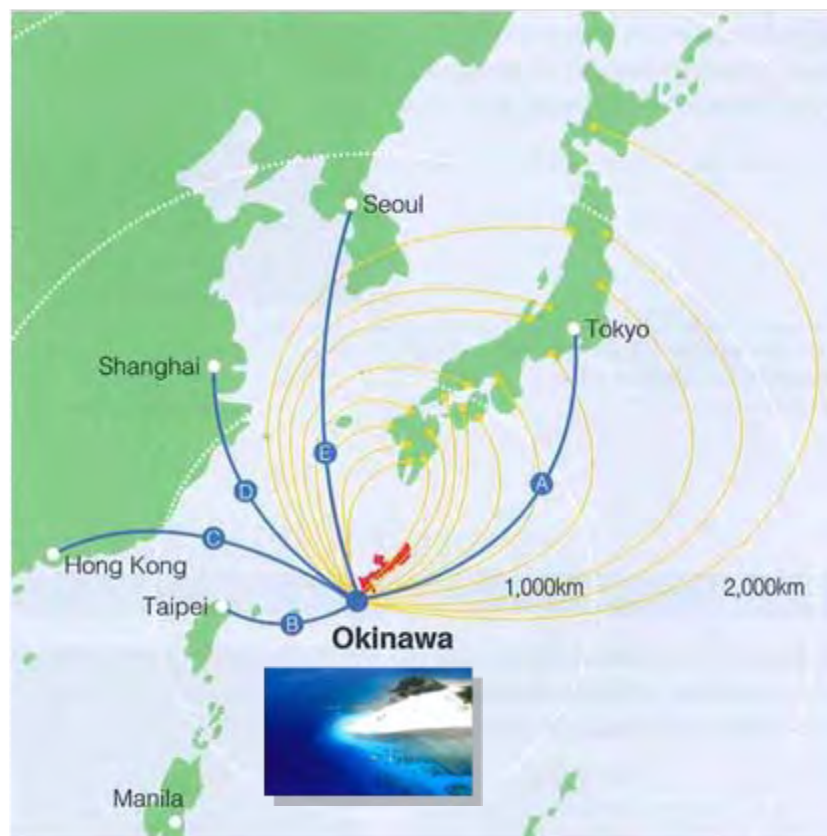
5. アクセス

Connected to the World

国際線

台北	2便/日
ソウル	5便/週 (水金日)
上海	2便/週 (木日)
香港	4便/週 (月木金日)

※海外からの乗り継ぎは成田だけでなく、中部・関西や台北・香港も便利です。



国内線

羽田	23便/日
成田	1便/日
中部	6便/日
関西	10便/日
神戸	5便/日
福岡	16便/日
東北・北陸・中国・ 四国・九州等	1~3便/日

※2009年6月時点